

地域福祉活動計画の評価手法・評価研究の検討 ーソーシャルワークの価値と評価学的見地からの試論ー

○武蔵野大学 清水潤子 (会員番号 009899)

キーワード：地域福祉活動計画、評価、価値

1. 研究目的

2018年に施行された改正社会福祉法では、地域福祉の推進にあたり、行政計画としての地域福祉計画の評価が推奨されるようになった。しかし、その地域福祉計画と車の両輪と称される市区町村社会福祉協議会（以下、社協）が策定を推進する地域福祉活動計画については、まだ評価手法が確立されているとはいえない。行政とつながりは強いが、民間組織である社協と行政の間には、本来評価の発展の系譜などを辿っても、違う評価アプローチが存在するはずである。しかし、地域福祉活動計画の評価報告そのものが見える化される機会は限定的である。また、同じく改正社会福祉法で「地域における公益的な取組」の推進が謳われ、社協でも民間資金を活用した取り組みが散見されはじめている。助成元だけでなく、広いステークホルダーへのアカウンタビリティとして、事業成果の評価の必要性も主張されている。

本研究では地域福祉活動計画の評価について考えるにあたり、評価研究を含む先行研究を振り返り、改めて評価の意味や意義について評価学やソーシャルワークにおける評価の位置づけを考慮し、今後の評価アプローチの多面的な検討に向けた視座を得ることを目的とする。

2. 研究の視点および方法

CiNi を用いて、「地域福祉活動計画」と「評価」、「地域福祉」と「社会福祉協議会」と「評価」、「コミュニティワーク」と「評価」、「コミュニティソーシャルワーク」と「評価」という組み合わせで論文検索を行った。検索結果から、本発表の趣旨に合致する論文を確認・選択し、先行研究から読み取れる内容を整理し研究の現状を確認したうえで、評価学的な知見を枠組みとして、地域福祉活動に係る評価実践や評価研究についての視座や課題を考察する。

3. 倫理的配慮

本研究は、日本社会福祉学会研究倫理規定を遵守している。データは論文等すでに公表されているものを使用した。また開示すべき COI はない。

4. 研究結果

特徴的な結果としては、評価手法に関しては、地域福祉活動計画を市区町村社協の地域福祉援助と捉える際に、近年では社協の業務や地域福祉活動計画についてプログラム評価やそれに類する方法を使い、実証研究を行う「プログラム評価研究・論文」が増えてきている傾向が見られた。評価目的としては、社協の実践（計画策定）の事業評価であり、評価の実施主体については、住民参加や住民主体の理念から、何らかの形で協働・参加型で評価を行うスタイルを推奨する主張が確認された。しかし、社協のアカウンタビリティとして、評価の言葉の獲得を目指す研究は存在しても、そもそもの地域福祉活動の価値を引き出すところに問いを立てた研究は限局的であった。

5. 考察

評価学の発展の歴史を振り返る中で、時代における評価ニーズが変わる中、多くの評価理論家や理論やアプローチを構築している。一方、地域福祉活動計画の評価は、PDCAに沿った事業プロセスの check やモニタリングが主流である。この背景には地域福祉活動計画策定指針や、地域福祉計画の評価（行政評価）の影響があるだろう。また実証的な介入研究を支持する研究基盤の存在も見逃せない。また計画においては、コミュニティケアとコミュニティ・オーガニゼーションという大きく特徴の異なる実践が事業という形に姿を変え、計画の名のもとにまとめられていることも課題である。そもそも課題の解決に主眼を置くものと、課題解決の基盤を創るものに主眼を置くものでは、評価の次元やプロセス、重要な価値が異なるはずである。

Wanzer (2020) は、社会科学的な研究と評価はその専門性を異とすると主張しており、その観点からいえば、必ずしも実証的な知が対象の評価と結びつくわけではない。研究・理論化というプロセスにおいて、一般化可能性は重視されるが、ソーシャルワークは価値自由からは逃れられないことを藤井 (2018) も指摘しているように、評価に必要な事実特定の部分は体系的かつ客観的であっても、評価に不可欠な価値判断において、ソーシャルワークとしての価値軸を、評価という営みの根底に据える必要があるのではないか。このような視点から、地域福祉活動の評価を考える際に、計画評価だけにとどまらない、地域における人々の福祉的な営みの価値を引き出すことを目的とした評価視点が必要であると考える。

【参考文献】

藤井美和 (2018) 「社会福祉における価値—いのちの視点から—」『人間福祉学研究』11(1), 43-55.

Wanzer, D., L. (2020) What Is Evaluation? Perspectives of How Evaluation Differs (or Not) From Research, *American Journal of Evaluation*, 42(1), 28-46.